

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	富士宮市北町14-5		
自己評価作成日	平成25年2月6日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&IjigvoCd=2272100583-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』を常に意識しお客様・ご家族様の立場に立ちチームで支援している。
併設のデイサービスがあることから、リーダー間の相互研鑽や職員間の交流もあり、安心に繋がっている。地域の方との交流はお客様もとても楽しまれ、秋祭りの最終日の山車の披露・どんど焼きは恒例行事になっている。
本年度は顧客満足度向上のためISO認証取得に取り組み現在運用しており、さらなる質の向上を目指している。
今年度、来年度の計画にも多くの研修が予定され職員のスキルアップに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

湖山医療福祉グループ24法人、384事業所の「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の一面を担う事業所です。ISO認証取得に取り組むなか、日常の業務であいまいになっていた文書・物品管理などが具体的に改善されるとともに、職員から「ここはこうしたほうがいいね」「これは確認が必要だね」といった言葉ができて、意識が高まっています。ISO推進前から長年において研修が盛んで、年間数百に及ぶメニューから述べ50名余の参加が叶っており、職員の言葉や立居振舞に反映していることは、明らかに視認できます。管理者からの説明からもISOの姿勢や考え方の確かな定着が覗え、今後のさらなる進捗が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	湖山医療福祉グループの理念を念頭におき、職員行動指針・こやまケア行動指針を実践している。職員会議においては理念の共有を重点項目と位置づけ暗唱・こやまケアテストを行い浸透・確認している。	数ヶ所の、目に入る場所に掲示しており、唱和やテストで「お客様に寄り添う、気持ちの確認ができています。職員から「こやまケア」という言葉が自然にでてくることから、理念の浸透が視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二の宮区の夏祭りの会場が今年は百葉駐車場となり多くの区民の方と交流ができた。秋宮の最終時は二の宮区の山車もお越し下さり踊りや太鼓の披露をいただいた。	どんど焼きなど、ほとんどの地域行事には地区長自ら情報を提供してくれ、また行事に出向けば席が用意され、ごちそうを振舞ってくださいます。また、幼稚園の年間計画にもはいつているほど、園児の訪問も定例となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向け勉強会は開催できていない。市内高校の実習生の受け入れを行い交流を持つことができラジオで放送された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には行政・包括支援センター、また地区の区長様はじめ民生委員の方々の参加をいただき、事業所の運営や近況報告、またご意見を頂きサービス向上に活かしている。また非常時の確認も行うようにしている。	これまでの話し合いの場は狭かったため、本年から共用空間で運営推進会議をおこなっており、自然な形で利用者の参加が叶っています。また、家族にとっても市へ直接進言できる機会として、有効に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型施設として、運営推進会議では、さまざまなご指摘やご意見をいただいている	市役所開催の認知症サポーター養成講座に参加した高校生の希望から、事業所での福祉体験を受け入れています。また、重ねて市からの要請で高校生との交流において地元FMの取材も受け、連携に協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修等で身体拘束の無いケアの徹底を図っている。本年度は身体拘束ゼロ宣言をした。身体的な拘束はもちろん、スピーチロックのないケアの徹底を目指している。玄関・ドア等の施錠はしていない。	玄関をはじめ出入り口の施錠はなく、また身体拘束ゼロ宣言をおこなっています。職員会議内で伝達講習を主として、意識継続を促しています。中途採用者にも理念の説明とともに本件に関して必ず確認しています。また、ヒヤリハットを事故報告書と同一書面とし、ヒヤリの認識を増やし事故を減らす取り組みも本年から始めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や職員会議等で学び、法人としての理念の下、虐待を絶対にしない、見過ごさない努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を含め一部の職員は勉強会への参加等で理解をしているが、全ての職員の理解は充分でない。また、必要性があれば支援できるよう努力していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書の内容について十分に説明し、ご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に多くのご家族様が面会に来られるため、日々の様子をお伝えしている。アンケートを実施し回答は職員に周知すると共に掲示・改善している。運営会議録はご家族様に配布し運営状況を伝えている。	運営推進会議は家族の参加を確実にすることをねらいとして代表参加制でしたが、次回からは全ての家族に案内をだし、参加を募るようになりました。これは年2回おこなっている家族会で決まったもので、家族と諸所話し合っていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において事業所や法人の経営状況や運営方針を報告し、それに対する意見を聞く機会を設けている。計画作成担当者が参加する運営会議では法人幹部も参加し運営に関する意見を直接反映できるしくみを作っている。	自己評価における上・下期の個人面談や異動希望アンケートもあり、職員の意見を収束する仕組みがあります。家族会のときに手作りの食事を提供したいとの職員意見を反映し、本年は職員の手によるバイキング食事会をおこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で目標管理システムを導入、また異動希望調査を実施し、随時面談を行うなど、職員一人ひとりがやりがいを持てる環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種や職責、経験に応じた各種研修を実施、積極的に参加できるよう配慮している。また未経験の職員に対しては、日々の業務の中で知識や技術が獲得できるようプリセプター制度を導入し成果を挙げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入し、合同運動会や実践発表会・事例検討会に参加。また職員交換研修にも賛同し他事業所との連携を図っている。法人内研修では他グループホームの職員と共に学ぶ機会が多くなる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの要望を取り入れるよう努めているが、認知症等で聞き取りが困難なため、家族からの情報や訴えが優先されるケースも多い。しかし、初期段階において本人の喧嘩を逃さず、職員全体で共有し、ケアに反映できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学をすすめ、ご家族様からご意見やご要望が聞きだせるよう努力している。また、ケアマネージャーやそれまで関わりのあった介護施設からの情報を得よう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の現状をしっかりと把握し、今、どのような支援が必要かを探り、緊急性のある場合には行政等につなげていく。またグループホーム入居がその方にとって最善の方法であるのかを見極め助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とご家族様にとってのグループホームの役割を常に問い、暮らしを共にするという姿勢を大切に考えている。しかし、時として、業務が優先されてしまう場面のあることも否めない。チームワークの大切さを痛感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	多くのご家族様が頻繁に面会においていただけ、ほぼ毎日お越しくださるご家族様がいる。日々の状況を共有し、本人にとって良い方向性を探っていける関係性を継続していくために細かに状況の報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊など、一緒に過ごせる時間を持つよう願っている。また職員との個別外出を実施し希望される場所への外出ができる体制がある。面会は時間を制限していない。デイサービスに友人がいる方は会えるようにお声かけをしている。	家族の面会時間を制限せず、また滞留時間を多く持ってもらえるよう支援しています。併設のデイサービスの利用者からクラフトを教えてもらうことを楽しみにする利用者もいます。また、趣味の将棋に、職員がコンピュータ片手に相手をすることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮している。ケアプランにものせている。食事・レクなどを通じ関わり合える時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	5年程転居というケースはなし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体の暮らしが出来るようにと考えるが困難なケースも多い。日々の暮らしの中で発せられる言葉から、ケアに活かしたいと考えるも、まだ、充分でない。	本人本位に寄り添うケアが功奏し、入所後平生を取り戻した利用者はこれまでも多くいて、最近も予約した特養の順番がきても百葉二の宮での継続を決めた家族がいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様からの聞き取りなどから、これまでの生活や馴染みの暮らし方を探り、これからの生活の楽しみにつなげていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、先入観にとらわれず現状を把握している。また健康状態の把握に常に努め、異変を見逃さないよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いを聞きだせるような関係性の構築に努めている。お客様の担当職員を決め、定期的なケース会議を開催し職員全体で検討し介護計画を作成している。書式を変え常にモニタリングが行えるようにした。	各居室担当が1名の利用者の全体を網羅する一方で、排泄・食事介助などの各委員が異なる角度からの意見を添えていて、多面的なモニタリングが叶っています。ISOを導入し、介護計画に係る書面管理にも精度が増したことが視えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子や気づき、行動等を細かく記録し、情報の共有をすると共に、朝夕の送り時に報告し、日々の介護に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の持つ多機能性やネットワークを活かし、お客様やご家族様の要望に応じた柔軟な対応ができるよう意識している。また、併設のデイサービスとの連携により、慰問や季節の行事など、楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元二の宮区が祭り時に来てくださりお客様が大変喜んでくれている。地域のボランティア・幼稚園・趣味の団体等、施設外の方との交流が盛んであり、その支えの中で、安全で豊かに生活できていると考え感謝している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ併設のデイサービス看護師に報告し、確認してもらい指示を仰いでいる。また、週に一度訪問看護師の訪問があり、全利用者の状況把握とアドバイスを受けている。	協力医は母体病院で、月1回の訪問診療をはじめ手厚い配慮を得、安心の環境にあります。1名のみ家族の受診支援で在宅からのかかりつけ医を利用しています。当該医師は他の利用者の緊急時にも応じてくれ、第二の協力医といえる存在にもなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状況の変化に留意し、必要に応じ併設のデイサービス看護師に報告し、指示を仰ぐ。また、週に一度訪問看護師の訪問があり、全利用者の状況把握とアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り職員が見舞い、退院後スムーズに元の生活に戻れるよう支援した。転院時にはデイサービスの看護師も同行し情報を得ると共に安全面にも配慮した。早期退院と受け入れの可能性を探り、出来る限りダメージを少なくするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応では、知識・判断力が問われるため不安や負担を感じる職員もいる。(特に夜勤帯)。主治医や看護師との連携し、相談している。今までに3例のターミナルケアを経験し、誠意ある対応に勤めてきた。	看取りはこれまで3件の実績があります。「最期まで」というのはあたりまえのこととしてきましたが、1名夜勤や心的負担などを主たる理由に看取りにかかる退職があることから、現在あらためて見直しをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	12月職員会議時にマニュアルを確認し、事故発生時に慌てることなく対応できるよう指導した。急変・異常時はデイサービス看護師がいる場合にはすぐに応援にはいる体制ができている。救命救急講習は昨年・本年度で全員受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の訓練で車いすの方も階段からの避難や煙訓練をなど実践に即したものを行った。また、地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築くよう努力している。夜間想定訓練が実施できていないがメールでの呼集訓練を行い半数程度の職員が集まることのできた。	年2回の避難訓練のうち1回は消防署の立ち合いの下、エレベーターを使わず2階から降りる訓練をおこないました。具体的な課題も多く見つかったため、防災委員会とともに年度計画にも反映させ、改善に取り組む予定です。	ケムリ訓練は大変役に立ったとのことから「地域の皆さんにも体験を」との声が挙がっているとのことですので、ぜひ実現を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に丁寧な言葉づかい、対応の確認、自己チェックがあり施設全体で努力を続けている	法人で年2～3回の接遇研修をおこなっていて、同じ人が継続参加することで定着させようとしています。百葉二の宮も接遇委員の事務職員を中心に推進しています。来客対応マナーが基本に忠実なことや、利用者を「お客様」と呼ぶことなども目視しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表出し易いようお客様との良い関係を保つ努力をしている。自己決定が出来るように、選択し易いような言葉かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは概ね決まっており、その中でも本人の心身の状態を考慮し一人ひとりのペースを守っていけるよう支援している。介護度の高いお客様も多く、時に職員側の都合が優先されてしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが難しい方には職員がその人らしさと大切にコーディネートしている。寝癖のないように髪を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食、職員と共に食卓を囲んでいる。できる方には皮むきや盛り付け食器拭き等、お話しをしながら一緒に楽しみながら行っている。季節に応じた行事食や外食などでは、好きなものを選んでいただいている。	業者から届く食材で職員が彩りのよいメニューを提供しています。職員が間に入り、会話もしながら楽しく食事が進んでいます。馴染みの外食チェーン「夢庵」もあり、外での食事も月2～3回あります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じ、嚥下等の状態に合わせたバランスの良い食事を提供し、摂取状況を記録している。水分量のチェックは必ず行い、毎日のゼリーを含め一日を通じて必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員介助または見守りの中に行っている。また週一回歯科衛生士の訪問、月一回の歯科医師の受診を受け、口腔状態の維持向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方2名はおむつを使用しているが清潔の保持に努めている。排泄パターンを把握し適宜誘導することで、日中はパットの使用はあるもののオムツの使用はない。夜間も随時声かけにより、失敗のない排泄の自立に向けた支援を行っている。	「日中はトイレで」の方針とともに「気持ちよく」を実践しており、紙パンツではなく布パンツを慣行しています。入院から戻ってきた人にも、紙パンツとトイレからはじめ、徐々に移行し向上させています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や水分摂取に心がけ、また、毎日の体操や散歩など活動的に過ごしていただくことで自然排便を促している。また、食後の自家製ヨーグルトは好評でできるだけ薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日ご希望により入浴をいただいている。現在は午後が入浴時間となっているが、二人での介助が必要な方もいらっしゃるため安全の確保のためデイサービスにも協力してもらっている。	休浴日はありません。全介助の利用者の身体的負担を考慮し、清拭に切り替えることはありませんが、通いのほぼ全員が毎日入浴しています。ヨモギ汁を届けてくれる家族がおり、市販の入浴剤と交互に利用し、楽しみとともに気分転換に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンにあわせ就寝の支援をしている。お部屋で読書をされてから休まれる方、畳で職員が側にいることで安心される方もいる。20時頃に休まれる方が多いが夜中までホールを歩かれている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について職員全員が把握している。また、飲み忘れや間違い等ないようにチェックを毎回行い確実に服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの持っている力が発揮できるよう、仲間作りなどに配慮し、生活にメリハリを持っていただきたいと考える。しかし、全体的に意欲・活動性が低下している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や催し物への参加、季節を見つけにドライブなど、出来る限り対応している。個別外出も企画し喜んでいただいている。ご家族さまとの外出はあまり多くなくご家族様の都合で決まったお客様だけになっている。	食事を兼ねた外出は月2～3回おこなわれ、お弁当持参での公園では思いがけず幼稚園児との交流もあり、楽しい思い出となっています。職員意見から始まった個別の外出支援も続いていて、非番の職員がボランティアで同行することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自身で現金を所持している方もいらっしゃる。他の方は施設で預かる形をとりながら、買物や外出時などに支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時ご希望により手紙や電話の支援をしている。お手紙が届くケースも多く、お返事を書くお手伝いをさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間等の共用部分には椅子やベンチ、ソファなどが配置され、いつでも自由に過ごしていただけるよう配慮している。また壁面には季節感のある飾り物やお客様の写真、共同制作品などが飾られ、清潔で居心地の良い空間となるよう努めている。	テーブルの黄梅からは職員の真摯な優しさが感じられます。広い共用空間の壁には外出や行事の写真がたくさん掲示され、日頃の関わりが深さが伝わります。温・湿度計を備えていますが、都度利用者に確認し、調整しています。次亜塩素酸の拭き掃除や噴霧は定期的におこない、感染対策も万全です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ベンチやソファが設置されている。お一人で、あるいは気の合うお仲間と、思い思いにお好きなように過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族様に使い慣れた馴染みの家具の持込を依頼している。御仏壇やご家族の写真や趣味の作品などを配置し、その人らしい空間の提供を心がけている。	洗面台、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられていますが、それぞれの趣味嗜好が反映した居室づくりが成されています。特にカーテンの柄や色には本人の趣が感じられ、家族が本人を思う気持ちが覗えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の拠点が建物の2階であり、外との隔たりを感じる。広いフロアを生かしてホール歩行や運動するスペースとして活用している。今の環境の中で工夫し、支援していきたい。		